



2007年3月7日

会社名 ダイヤモンドリース株式会社
代表者名 代表取締役社長 小幡 尚孝
(コード番号 8593 東証1部)
問合せ先 広報 IR 室 太田 尚志
(TEL 03-3287-6461)

会社名 UFJ セントラルリース株式会社
代表者名 代表取締役社長 田中 一好
(コード番号 8599 東証・名証1部)
問合せ先 総合企画部 松室 尚樹
経営企画グループ
(TEL 052-221-1525)

「三菱 UFJ リース株式会社」の経営目標および事業戦略について

ダイヤモンドリース株式会社(以下「DL」と)とUFJセントラルリース株式会社(以下「UFJCL」と)は、2007年4月1日付けで合併し、社名を三菱UFJリース株式会社(以下「三菱UFJリース」と)として新たなスタートを行う予定です。

三菱UFJリースは、企業経営に伴う「物件(もの)」や商流に付帯する幅広い金融ニーズに対応する最高品質の商品力、提案力、調達力等を有し、それを支える優れた人材を有する総合ファイナンスカンパニーとして、この分野におけるトップカンパニーを目指してまいります。

今般、三菱UFJリースの事業戦略および目指すべき中期目標を策定いたしましたのでお知らせいたします。

本計画は、現在の経済状況、市場環境および業界動向等を踏まえ、具体的数値として掲げた3年後の目標を実現するために、当社の中期的な経営方針を取り纏めたものですが、合併後も随時内容を見直すことで持続的な成長を図ってまいります。

主要な経営方針、強化分野、組織体制およびグループ会社群につきましては、添付資料をご参照下さい。

1. 経営理念

経営理念は次の通りとし、お客様への最適ソリューションをご提供しつつ、業界トップグループ企業として持続的な成長を図ってまいります。

経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します。

- (1) お客様にベストソリューションを提供し、企業価値の持続的向上に努めます。
- (2) 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献します。
- (3) 社員一人ひとりが意欲と誇りを持てる環境を提供します。

2. 主要な経営目標

3年後（2010年3月期）に実現を目指す主要な経営目標は次の通りです。

(1) 連結売上総利益 1,150 億円以上

収益性に軸足を置きつつ事業基盤を最大限拡大し、あわせて適正な ALM 管理の下、安定した低利資金の調達を行うことで、連結売上総利益を 1,150 億円以上とすることを目指します。

平成 18 年 3 月期両社単純合算値 899 億円（DL：522 億円、UFJCL：377 億円） 単位：億円

	2002 年 3 月期	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2010 年 3 月期
DL	356	424	451	514	522	1,150
UFJCL	230	207	289	338	377	
合算値	587	632	741	852	899	

(2) 連結当期純利益 380 億円以上

更に、グループ全体で厳格な債権管理とローコストオペレーションを徹底することで、連結当期純利益 380 億円以上を目指します。あわせて、一株当たり純利益や一株当たり自己資本の持続的な増加を図り、企業価値を増大させてまいります。

平成 18 年 3 月期両社単純合算値 324 億円（DL：211 億円、UFJCL：113 億円） 単位：億円

	2002 年 3 月期	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2010 年 3 月期
DL	94	88	145	186	211	380
UFJCL	28	16	46	66	113	
合算値	122	105	192	252	324	

(3) 連結自己資本比率 8.5%以上

多様な事業展開に必要な自己資本の充実に努め、連結自己資本比率 8.5%以上を目指します。

平成 18 年 3 月期両社単純合算値 6.4%（総資産、純資産を合算して算出）

	2002 年 3 月期	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2010 年 3 月期
DL	4.2%	4.4%	5.1%	6.0%	7.1%	8.5%
UFJCL	2.6%	2.6%	2.6%	3.2%	5.4%	
合算値	3.6%	3.7%	4.1%	4.8%	6.4%	

以上


「三菱UFJリース株式会社」の 経営目標および事業戦略について

2007年3月



本資料には、現時点で入手可能な情報に基づき両社がそれぞれに判断した将来の予測数値が含まれておりますが、実際の業績は、様々な要因により、これらの予測数値とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
三菱UFJリース株式会社のシンボルマークおよび社名ロゴは、2007年4月1日以降の新会社のものです。

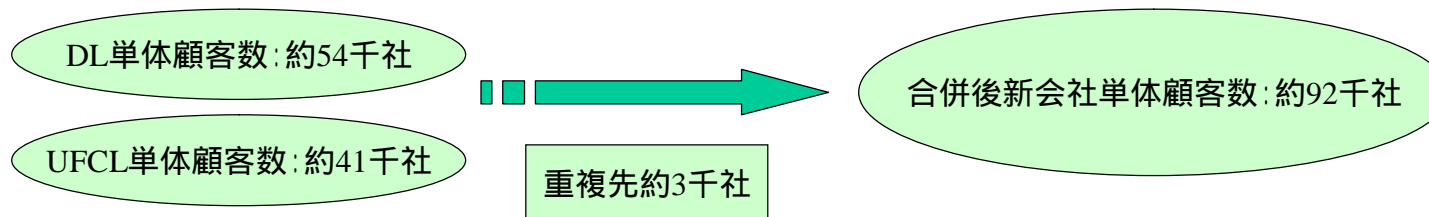
三菱UFJリースの概要

商号	 三菱UFJリース株式会社 MUFG
合併期日	2007年4月1日(予定)
本社所在地	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 2007年5月を目途に、新丸の内ビルディング(東京都千代田区丸の内一丁目5番1号)に移転の予定です。 名古屋本社:名古屋市中区栄一丁目24番15号
代表者	代表取締役会長 田中 一好 (現UFJセントラルリース株式会社 代表取締役社長)(予定) 代表取締役社長 小幡 尚孝 (現ダイヤモンドリース株式会社 代表取締役社長)(予定)
資本金	16,440百万円
上場市場	東証第一部、名証第一部

合併シナジー効果

(1) 顧客基盤の拡大～重複の少ない顧客層

2006年3月末のDLとUFJCLの単体顧客数合計は約95千社ですが、この内両社重複先は約3千社に過ぎず、顧客基盤については高い補完性があります。



(2) 商品ラインアップの充実

不動産関連ファイナンスや専用システムの活用によるファクタリング取引、関係会社を通じたクレジット業務等に注力し、ここ数年で非リース事業のウエイトが大きくなっているDLに対し、UFJCLは、リースを中心とした金融サービスに注力、その取扱で、工作機械でトップクラスのシェア、土木建設機械や医療機器に強みを有しています。両社の商品を併せ持つことで、お客様に対する多様な金融サービスの提供が可能となります。

(3) 財務面での優位性

合併基本合意に伴い、日本格付研究所(JCR)より取得しているUFJCLの格付はA - からAA-に3ノッチ格上げとなりました。また、格付投資情報センター(R&I)より取得しているUFJCLの長期格付けは「格上げ方向」でのレーティングモニターに指定されました。

合併後の新会社は、こうした格付けを背景に、適切なALM管理の下、低利安定資金の調達に努め、更なる格上げを目指してまいります。

(4) メインフレームが共通のシステム

DLとUFJCLのシステムは共通のメインフレームを採用しているため、統合はスムーズに行われることとなります。

三菱UFJリースの経営理念/経営ビジョン/行動指針

経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します。

- ▶ お客様にベストソリューションを提供し、企業価値の持続的向上に努めます。
- ▶ 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献します。
- ▶ 社員一人ひとりが意欲と誇りを持てる環境を提供します。

経営ビジョン

- ▶ 業界トップの総合ファイナンスカンパニーを目指します。

行動指針

- ▶ ノンバンクならではのリスクテイク
- ▶ 課題解決に向けて果敢にチャレンジ
- ▶ 戦略を伴ったスピーディーな行動
- ▶ ソリューションを実現する専門性
- ▶ 個人プレーよりチームプレー
- ▶ 社会的責任への真摯な取り組み

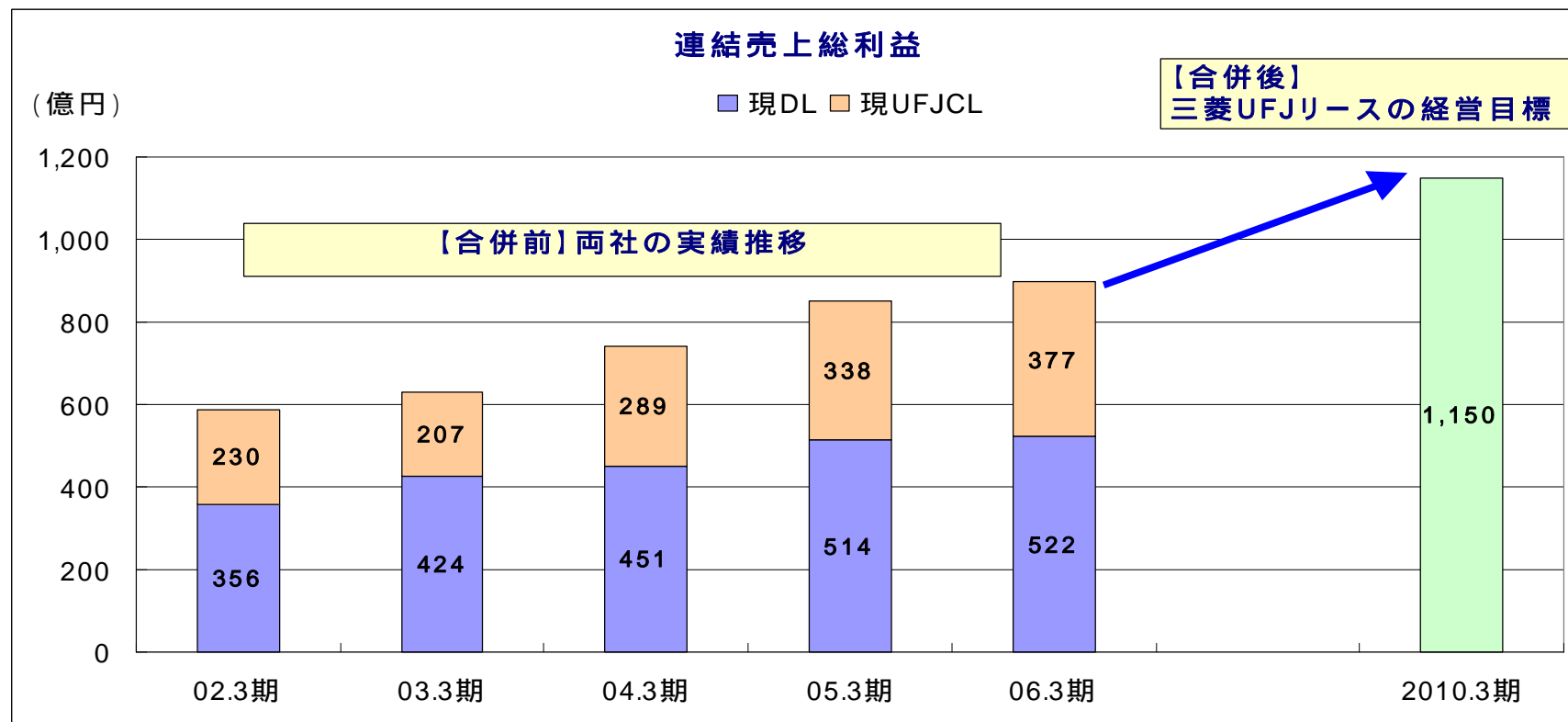
三菱UFJリースの経営目標

新生三菱UFJリースが2010年3月期までの達成を目標とする経営目標は次の通りです。

1. 連結売上総利益1,150億円以上

収益性に軸足を置きつつ事業基盤を最大限拡大し、あわせて適正なALM管理の下、安定した低利資金の調達を行うことで、連結売上総利益を1,150億円以上とすることを目指します。

2006年3月期両社単純合算値899億円(DL:522億円、UFJCL:377億円)



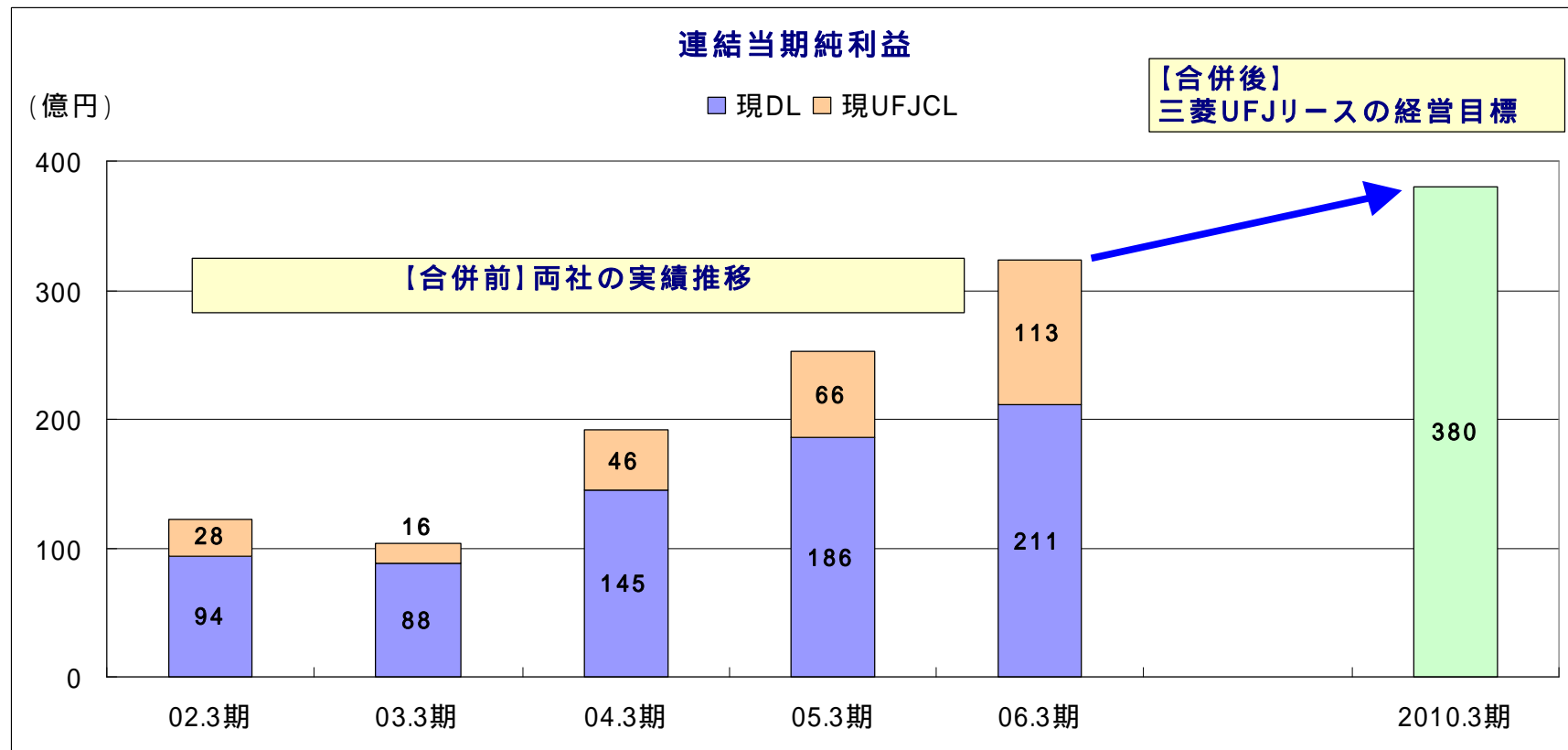
三菱UFJリースの経営目標

2. 連結当期純利益380億円以上

更に、グループ全体で厳格な債権管理とローコストオペレーションを徹底することで、連結当期純利益380億円以上を目指します。

あわせて、一株当たり純利益や一株当たり自己資本の持続的な増加を図り、企業価値を増大させてまいります。

2006年3月期両社単純合算値324億円(DL:211億円、UFJCL:113億円)

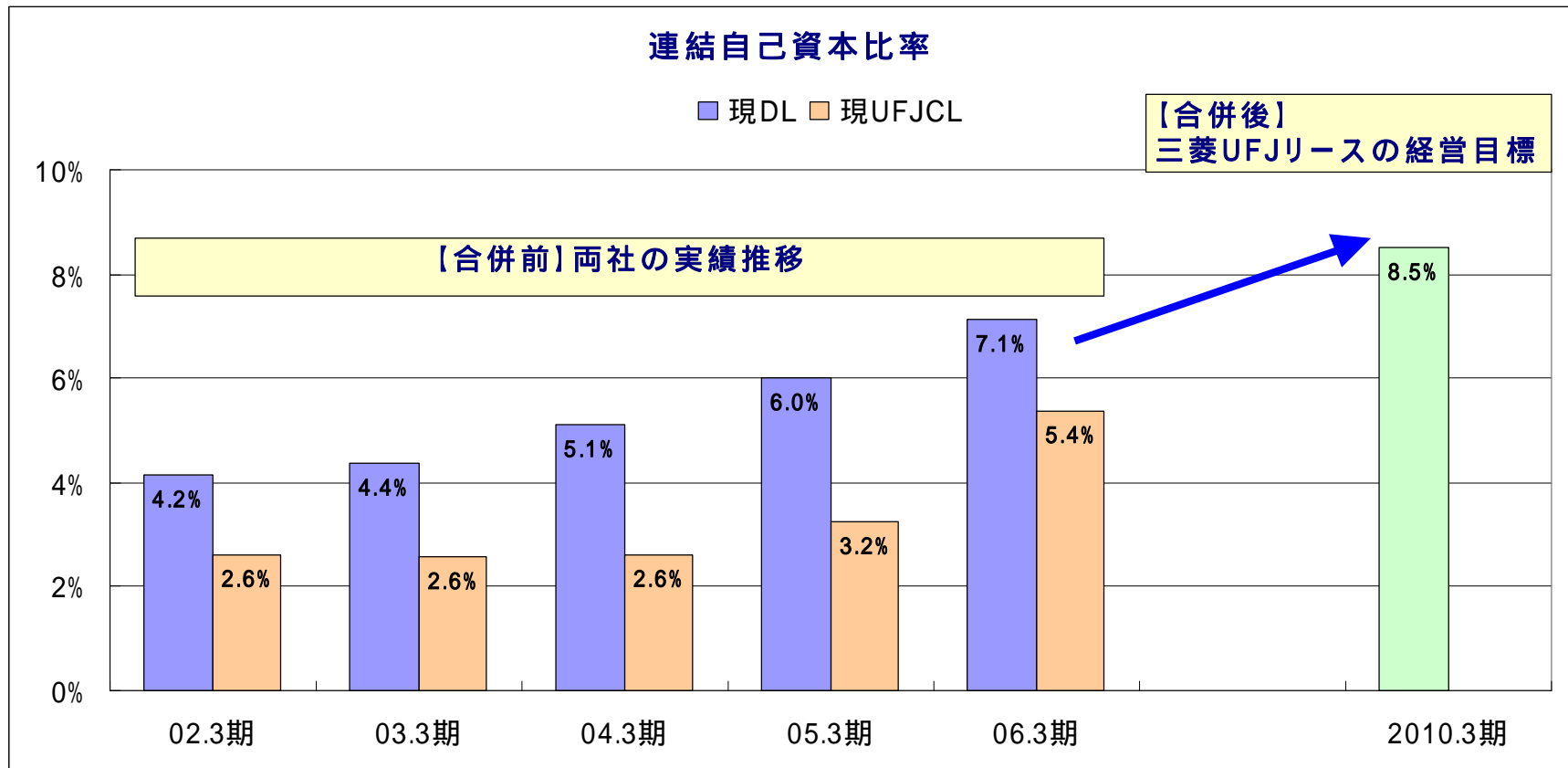


三菱UFJリースの経営目標

3. 連結自己資本比率8.5%以上

多様な事業展開に必要な自己資本の充実に努め、連結自己資本比率8.5%以上を目指します。これにより、一層積極的にリスクテイクできる体制を構築するとともに、持続的に高格付を有する企業を目指します。

2006年3月期両社合算値6.4%・・・総資産、純資産を合算して算出(DL:7.1%、UFJCL:5.4%)



三菱UFJリースの重点戦略

三菱UFJリースは、業界をリードするトップクラスの上場総合リース会社として持続的な成長を図るために、以下の事項を経営の基本方針とします。

1. 収益力の強化

合併して増強・拡大される人材、商品、ブランド、リスクテイク力、顧客基盤を活用し、次の重点施策を強力に推進、お客様の高度化するニーズに、付加価値のある多様な商品群でソリューションをご提供いたします。同時に、「新規戦略事業」として、適正なリスク管理をベースとした事業リスク案件の取組みや金融ストラクチャリング力の強化および資産管理業務等について、外部アライアンスやM&Aも駆使し、積極的に取組んでまいります。

- (1) 不動産ファイナンスの拡大
- (2) オペレーティングリースの本格化
- (3) 環境、医療等の特定業種への取組み強化
- (4) オートリース事業の強化
- (5) 新規M&Aの積極対応

2. 経営インフラの改革

効率性、生産性を重視、また経営インフラの共有化(連結コモンキッチン化)など、グループ連携の強化を通じて全体のポートフォリオにおける拡大戦略を重視しながら連結利益を極大化してまいります。

- (1) ビジネスプロセスの効率化
- (2) 審査プロセスの変革
- (3) 業務集中化(連結コモンキッチン化)の拡大
- (4) バランスのとれたポートフォリオの再構築
- (5) リスク管理体制の高度化
- (6) BSC(バランス・スコアカード)による経営管理

3. 信頼の確立

ステイクホルダーとの良好な関係構築に努め、透明性の高い経営を推進するとともに、内部統制管理を充実させ、様々な分野で企業の社会的責任を果たしてまいります。また、社内コミュニケーションを活性化させ社内の一体感を醸成します。

- (1) CSR経営の確立
- (2) 内部統制管理の強化

4. 人材育成

今後も多様な商品サービスの開発、更なる品質向上を追求するため、新会社はそれぞれの分野における専門家の集合体として業務内容のレベルアップを図ってまいります。あわせてスピードや革新性を意識した評価システムを確立させます。

三菱UFJリースの事業戦略(強化分野)

(1)オペレーティングリース・レンタル

先行する車やPCに加え、両社が膨大なデータを有する様々な「もの」に対する専門性を磨き上げ、「もの(ソフトコンテンツを含む)」の特性に依拠する金融サービスに注力してまいります。

(2)WEB取引の拡大

大量物件の管理等を効率的に行うため、アドバンテージを有するWEB対応力の強化を一層進めてまいります。今後のお客様ニーズに対応するアプリケーションを随時構築してまいります。

(3)PFI事業の強化

DLとUFJCLはこれまでも、様々なPFI事業に積極対応してまいりました。また、その多くが代表企業としての受注であり、今後もこれまでに蓄積したノウハウを活用し、この分野のビジネスを強化してまいります。

(4)不動産関連ファイナンス

これまでに蓄積した不動産に関する情報・チャネル・ノウハウをベースとして、特にアセットリスクによる不動産流動化案件の取組みを加速させてまいります。

(5)中古物件売買ビジネス

リース満了物件等の販売に加えて、お客様で不要となった中古機械設備の買取・販売を行うサービス(Reuse Marketing Service)の提供を強化するとともに、中古半導体関連設備、中古工作機械を中心に中古物件売買ビジネスも一層拡大させてまいります。

(6)環境分野

廃棄物処理、リサイクル等を手がける優良事業者へのファイナンスサービスの提供を通じて、社会全体での廃棄物処理機能の拡充に貢献してまいります。また、ESCO事業の更なる強化により、環境負荷の軽減に繋がるサービスを提供してまいります。

三菱UFJリースの事業戦略(強化分野)

(7)医療分野

従来より、医療機関専用のスコアリングシステムや診療報酬ファクタリング専用システム等のインフラを背景に、独自の営業展開のほか、医療機器メーカーとの連携も推進することで、基盤を拡大してまいりましたが、今後もこうした取組みを加速させるとともに、更なる外部リソースの活用も視野に入れ、医療業界への深掘りを推進いたします。

(8)国際分野

内外拠点の連携を更に積極化させ、海外に進出されるお客様の金融ニーズに積極対応いたします。あわせて海外拠点の充実も継続して注力してまいります。

(9)ストラクチャードファイナンスの強化

新商品開発や既存商品の改良等を通じて多様なスキームを構築し、お客様の幅広い金融ニーズに的確にお応えしてまいります。特に大型物件ファイナンスに用いられるストラクチャードファイナンスについては、グループ内に存在するノウハウを最大限活用して、強化してまいります。

(10)オートリース

三菱グループのオートファイナンス事業再編および合併により、新会社グループの保有台数は30万台を窺う規模となりますが、今後も様々な営業チャンネルと独自のルートを活用した営業展開、更にはM&Aも視野に事業規模を拡大してまいります。

(11)システム戦略

合併後のシステムは、お互いのメインフレームが同じという利点を生かし、合併後1年を目途に完全統合する予定です。

この他、競争力の源泉であるシステム装備については、関係会社システムとの統合、グループ外リース会社へのASP事業の更なる拡充を推進します。

(12)IT関連サービス

リース周辺業務として積上げてきた情報関連サービスの独自ノウハウを活用し、内部統制管理をサポートするソフトウェア管理サービス等を強化推進してまいります。

三菱UFJリースの組織

三菱UFJリースグループは、グループ会社を含めて多様な金融サービス機能を有する総合ファイナンスカンパニーグループです。新会社発足時の組織は以下の通りです。

(1) 営業部門

営業部門につきましては、エリア別・商品別に5つのカンパニーを設け、それぞれのカンパニー長が管轄することとなります。DLとUFJCLの店舗のうち、重複している9店舗はすべて集約し、効率的な営業展開を図ってまいります。

営業カンパニー

- 金融開発事業カンパニー お客様ニーズに対応した多様な金融サービスを展開する5部門
- 専門営業事業カンパニー 高い専門性を有する人材を備え、高度化・多様化するお客様ニーズにお応えする6部門
- 東日本事業カンパニー 主に関東地区以東をカバーする15部店
- 中部事業カンパニー 主に東海地区をカバーする10部店
- 西日本事業カンパニー 主に関西地区以西をカバーする10部店

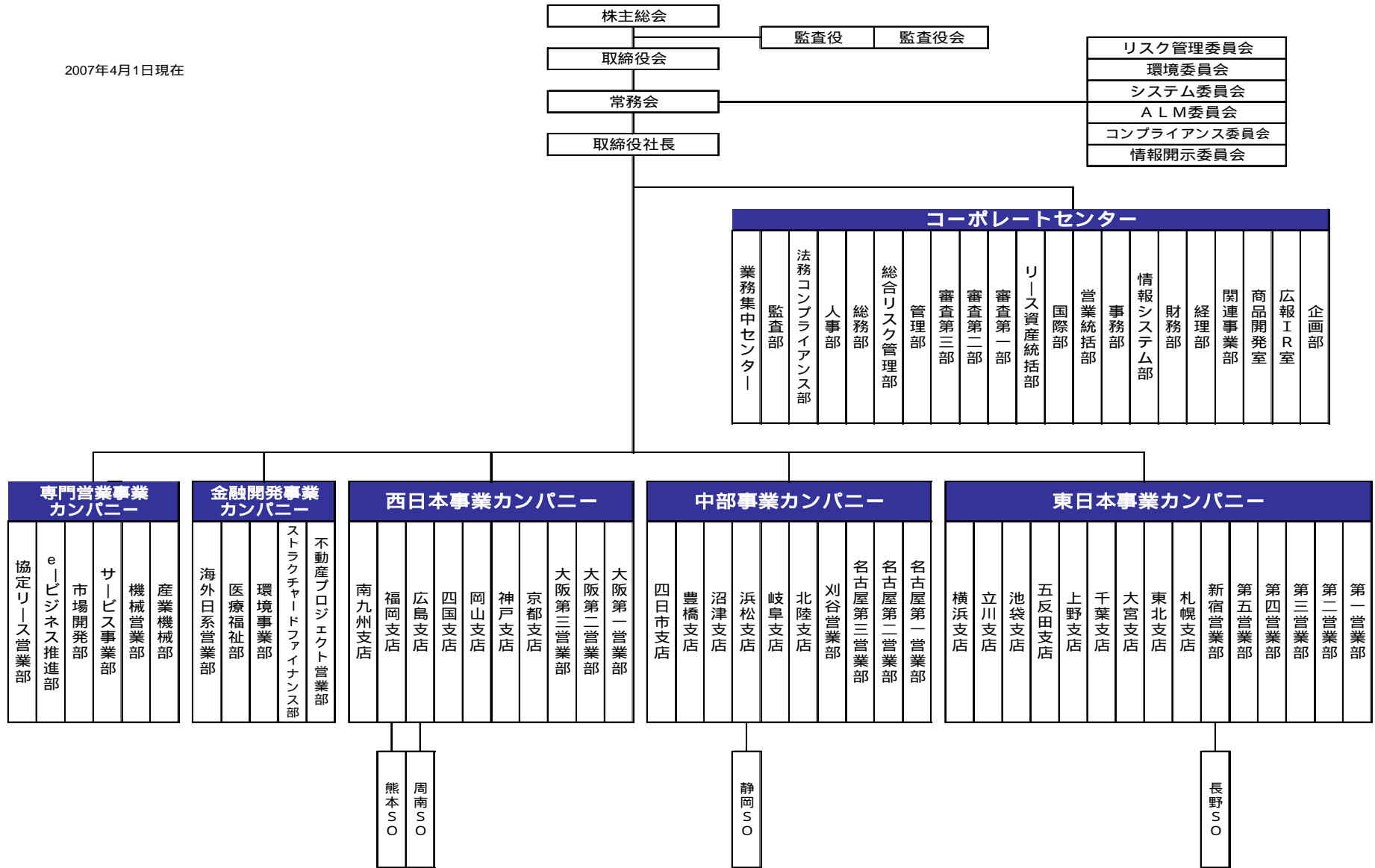
(2) 管理部門

両社の管理部門はすべて集約し、コーポレートセンターとしての位置付となります。合併にあわせて新設あるいは機能強化した部門は次の通りです。

- 商品開発室(新設) 多様化するお客様ニーズに対応するため新たな商品サービスの構築を行います。
- 関連事業部(新設) 増加する関係会社を連結マネジメントの観点から効率的に管理・業務推進します。
- 総合リスク管理部(新設) グループ会社を含めた総合リスク管理、情報セキュリティ管理等を所管します。
- リース資産統括部 リース満了、残価、中古物件市場の調査等を所管します。
- 法務コンプライアンス部 グループ会社を含めた各種法務事項、個人情報管理等を所管します。
- 審査第一部・第二部・第三部 企業規模や案件特性に応じた体制を整備、与信リスク管理の高度化を図ります。

三菱UFJリース組織図

2007年4月1日現在



三菱UFJリースの組織(主なグループ会社等)

(3) グループ会社

積極的なM&A、機能会社の設立等によりグループ会社を含め多様なサービスを展開してまいります。

国内主要グループ会社(出資比率には間接分を含む)

機能	会社名	所在地	主な事業内容	三菱UFJリース 出資比率
リース・ ファイナンス	ディー・エフ・エル・リース(株)	大阪府大阪市	リース等	95%
	(株)日医リース	東京都品川区	リース等	92.95%
	神鋼リース(株)	兵庫県神戸市	リース等	80%
	カシオリース(株)	東京都渋谷区	リース等	80%
	ひろぎんリース(株)	広島県広島市	リース等	80%
	首都圏リース(株)	東京都千代田区	リース等	75.63%
	中京総合リース(株)	愛知県名古屋市	リース等	70%
オートリース・ ファイナンス	三菱電機クレジット(株)	東京都品川区	リース、クレジット等	45%
	セントラルオートリース(株)	愛知県名古屋市	オートリース等	100%
	MMCダイヤモンドファイナンス(株)	東京都港区	オートクレジット等	50%
	ひろぎんオートリース(株)	広島県広島市	オートリース等	80%
	ケイエムリーシング(株)	東京都港区	オートリース等	80%
	三菱オートリース・ホールディング(株)	東京都港区	オートリース持株会社	50%
	ダイヤモンドオートリース(株)	東京都港区	オートリース等	50%
	三菱オートリース(株)	東京都港区	オートリース等	50%
レンタル	(株)ジャストオートリーシング	神奈川県横浜市	オートリース等	20%
	ダイヤモンドレンタルシステム(株)	東京都中央区	PCレンタル、総合資産管理等	100%
不動産関連	テクノレント(株)	東京都品川区	計測器レンタル等	30%
	セントラルコンパス(株)	愛知県名古屋市	不動産リース等	100%
	ダイヤモンドアセットファイナンス(株)	東京都中央区	不動産ファイナンス等	100%
中古機器販売	ダイヤモンドアセットサービス(株)	東京都中央区	不動産賃貸・管理等	100%
	MULエコビジネス(株)	東京都中央区	PC処理・再販等	100%
	ダイヤモンドイクイップメント(株)	東京都千代田区	中古半導体製造装置仕入販売	100%
	(株)ユーマシン	愛知県名古屋市	中古産業工作機械仕入販売	90%
	エム・キャスト(株)	東京都江東区	中古医療機器販売	80%
保険	(株)テクシードコンパス	愛知県名古屋市	IT関連事業	25%
	MULインシュアランス(株)	東京都千代田区	保険代理業	100%
事務受託	ディーエル・ビジネス(株)	東京都中央区	事務受託	100%
	セントラルビジネスサポート(株)	愛知県名古屋市	事務受託	100%

注) 社名・出資比率は2007年4月1日時点のもの。

三菱UFJリースの組織(主なグループ会社等)

海外主要グループ会社

会社名	所在地	主な事業内容	三菱UFJリース 出資比率
Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Hong Kong) Limited	中国(香港)	香港/中国での各種金融サービス等	100%
Bangkok Mitsubishi UFJ Lease Co., Ltd.	タイ	タイでの各種金融サービス等	44%
P.T. Mitsubishi UFJ Lease & Finance Indonesia	インドネシア	インドネシアでの各種金融サービス等	85%
Mitsubishi UFJ Lease (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール	シンガポールでの各種金融サービス等	100%
Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc.	米国 (デラウェア州)	米国での各種金融サービス等	100%
Diamond Lease (U.S.A.), Inc.	米国 (ニューヨーク州)	各種案件管理等	99.75%
Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Ireland) Limited	アイルランド	欧州での各種金融サービス等	100%

注) 社名・出資比率は2007年4月1日時点のもの。

その他海外拠点

拠点名	所在地	主な事業内容
ニューヨーク駐在員事務所	米国 (ニューヨーク州)	米国での各種情報収集等
上海駐在員事務所	中国 (上海)	中国での各種情報収集等